

(5) 日中活動の場 生活介護事業

○各事業の利用率

	定員	利用者数	利用率
幸の実園	35名	29名 (R6. 3. 31 現在)	82.8%
第二幸の実園	50名	40名 (R6. 3. 31 現在)	80.0%

○支援報告

- ・利用者一人ひとりの体力、適性、スキルに合わせた活動を実施し、維持、向上に努めた。
- ・作業や創作活動を通して体力の維持に努めるとともに、物を作る喜びを知り、働く意欲の向上に努めた。
- ・文化的活動など一人ひとりが生きがいを感じられるよう創造し、責任感や仲間意識を育むことができるよう努めた。
- ・利用者が生き生きと活動に参加できるよう努めた。
- ・活動の選択肢を増やす事で、利用者が自己決定をする機会を増やしていくと共に、利用者個人の特性や能力に合った活動を行えるように努めた。
- ・安全に配慮しつつ、無理のない範囲で外での活動や健康体操等の身体を動かす活動への参加を促す事で、体力やADLの維持を図った。

○作業班の概要

ア. 作業班 (令和6年3月31日現在)

施設名	作業班名	利用者	主な日中活動内容
幸の実園 (利用者数 29名)	ひまわり班	8	農作業・内職
	にじいろ班	8	アルミ缶リサイクル作業・メモ帳作り(紙ちぎり)他
	あおぞら班	8	内職・メモ帳作り・運動他
	こすも班	5	ビーズ製品作り・運動他
第二幸の実園 (利用者数 40名)	あさがお班	4	農作業(干し芋、ミニトマト)内職他
	かがやき 1班	11	アルミ缶リサイクル作業、自立課題、運動他
	2班	10	内職、園芸、運動他
	つばさ班	15	自立課題、創作活動、運動他

イ. 作業平均工賃 (令和5年4月1日～令和6年3月31日)

幸の実園	平均工賃	第二幸の実園	平均工賃
ひまわり班	1,612円	あさがお班	2,808円
にじいろ班	338円	かがやき班(1班・2班)	1,385円
あおぞら班	600円		
こすも班	200円		

○各作業班の取り組み実績報告

ア. アルミ缶リサイクル作業

・事業所別回収等実績

事業所	幸の実園	第二幸の実園
回収（日）頻度	企業…毎週火曜日 職員・保護者…随時	企業他9カ所…毎週火曜日 職員・保護者…随時
納品（日）頻度	6月・7月・10月・3月	毎月1～2回

・納品実績

○幸の実園

○第二幸の実園

幸の実園	数量 (kg)	金額(円)	第二幸の実園	数量 (kg)	金額 (円)
4月			4月	225	44,550
5月			5月	265	52,470
6月	67	13,266	6月	214	42,372
7月	29	5,742	7月	250	49,500
8月			8月	379	76,351
9月			9月	194	38,412
10月	67	13,266	10月	315	62,370
11月			11月	164	33,472
12月			12月	185	36,630
1月			1月	205	41,668
2月			2月	190	37,620
3月	85	17,297	3月	165	33,577
合計	248	49,571	合計	2,751	548,992

・支援報告

- ・アルミ缶をつぶす場所を工夫し、個々の特性に応じて一定の間隔で取り組めるよう努めた。
- ・アルミ缶リサイクル作業と内職との作業量をバランス良く行うことができた。
- ・各利用者の体力や能力に合わせて作業を細分化して割り振る事で、多くの利用者がアルミ缶作業に関わることができた。

イ. 手工芸品作り

○主な作業内容

- ・ビーズ製品作り（ブレスレット、指輪など）
- ・紙すき（メモ帳）



(作業風景)

・支援報告

- ・作る喜びや達成感を味わうことができた。
- ・個々の興味や関心のあることを作業に取り入れ、創作活動に意欲を持つことができるよう努めた。
- ・集中して取り組むことができるよう、状況に応じた場所の提供を行った。
- ・完成品を発表・展示する場を設けることで利用者の達成感や充実感を育み、次の活動への活力となる機会を作った。

ウ. 農作業

○主な作業内容

- ・栽培と管理；定植・防除・除草・収穫・運搬他
- ・加工品作り；干しいも、梅干しなど
- ・収穫業務他；ミニトマト、うるち米、もち米、さつまいも他
- ・農作物の製品化；分別・計量・袋詰め・シール貼り・テープ止め他



(作業風景)

・支援報告

- ・梅干し作業では、干す際に梅一粒一粒をつぶさないよう丁寧に扱い、昔ながらの梅干しができるように努めた。
- ・工賃向上を目標に取り組むことができた。
- ・干し芋作業においては、ロス低減の取り組みとして市場へ生芋を出荷し生産性を高めた。
- ・ミニトマト作業では、収穫・枝の誘引・剪定・除草作業・肥料散布等多岐にわたる作業内容において、利用者一人ひとりの希望や能力に合わせて作業を割り振りながら、徐々にスキルアップをできるように支援に取り組んだ。
- ・確定している範囲において、事前に利用者に作業の範囲や内容を伝えておくことで利用者が作業の見通しを持つことができ、安心して作業に取り組めるようになった。

エ. 内職

○幸の実園の主な取り組み：マーカーペンやボールペンの袋、箱詰め作業

・納品実績（幸の実園）

月	金額（円）	月	金額（円）
4月	7,161	10月	13,585
5月	8,115	11月	19,311
6月	8,520	12月	22,275
7月	11,435	1月	14,355
8月	11,365	2月	14,025
9月	11,365	3月	6,820
		合計	148,332

・支援報告

- ・内職作業を通して社会との繋がりを意識できるよう利用者への働きかけを行う。
- ・安定した内職が提供できない月があったため、バランスよく提供できるよう改善する。
- ・内職に取り組むことで、意欲が向上する利用者が増え作業効率を高めることができた。

○第二幸の実園の主な取り組み：プラスチック製品検品

・納品実績（第二幸の実園）

月	金額（円）	月	金額（円）
4月	8,958	10月	4,466
5月	3,994	11月	8,097
6月	11,363	12月	8,964
7月	8,124	1月	6,039
8月	3,455	2月	11,416
9月	7,719	3月	4,183
		合計	86,778

・支援報告

- ・作業過程を細分化することによって、内職活動に参加することができる利用者の人数を増やした。
- ・内職の納品や工賃をもらうことによって、利用者が前向きな気持ちで社会に参加することができるよう支援を行った。

オ. 運動・歩行活動・クラブ活動（毎週水曜日午後）・音楽活動

・支援報告

- ・個人の体力、体調等を考慮し歩行訓練や運動、シルバーリハビリ体操などを日常的に取り入れ活動を行った。
- ・音楽を使った体操やダンスを取り入れ楽しみながら体を動かすことができた。